

糸魚川市歯科保健計画 中間評価報告書

(案)



令和3年 3月
糸魚川市

目 次

第1章 計画の概要

- 1 計画の趣旨 1
- 2 計画期間の見直し 1
- 3 各ライフステージの目指す姿 1

第2章 中間評価の目的と方法

- 1 中間評価の目的 2
- 2 中間評価の方法 2

第3章 中間評価の結果

- 1 目標値の達成状況 3
- 2 中間評価のまとめ 4
- 3 各ライフステージの評価と今後の取組
 - (1) 乳幼児期 5
 - (2) 学童・思春期（児童・生徒） 7
 - (3) 成人期（妊娠期を含む） 9
 - (4) 高齢期 12
 - (5) 障害のある方・介護を要する方 14

第4章 目標値及び計画の見直し

- 1 指標の見直し
 - (1) 目標値を変更する指標 16
 - (2) 対象者を変更する指標 16
 - (3) 新たに追加する 17
 - (4) 指標削除する指標 18
- 2 評価指標一覧（改） 19
- 3 計画の見直し 21

第1章 計画の概要

1 計画の趣旨

糸魚川市では、平成18年度に「健康いといがわ21」を策定し、健康づくりの6分野の1つに「歯の健康」を取り上げ、健康づくりを推進してきましたが、県条例や国の法律を踏まえ、平成27年3月に「糸魚川市歯科保健計画」を策定しました。本計画は「生涯にわたり歯や口腔の健康を保ち、健やかで、心豊かに暮らせる」を基本目標に掲げ、5つのライフステージごとに現状や課題、施策を整理し、それぞれの特徴を踏まえた取組を進めています。

2 計画期間の見直し

当初、本計画の計画期間は第2次健康いといがわ21に合わせた、平成27年度から令和7年度までの11年間としていました。しかし糸魚川市総合計画の見直し・策定年度に合わせ第2次健康いといがわ21の計画期間が修正されたことより、当計画も計画期間を令和5年度までとします。

3 各ライフステージの目指す姿

基本目標

生涯にわたり歯や口腔の健康を保ち、健やかで、心豊かに暮らせる

乳幼児期 ○親子・家族で正しい生活習慣と歯みがき習慣を身につけます。

**学童・思春期
(児童・生徒)** ○食後と就寝前の歯みがきの習慣を身につけます。
○自分の歯と口腔の健康を意識します。

**成人期
(妊娠期を含む)** ○自分の口腔に関心を持ち、健康な歯と口腔を保ちます。
○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。
○妊娠期は、特に口腔内の健康保持に注意します。

高齢期 ○おいしく食事ができるよう、歯と口腔の健康を維持します。
○歯や口腔の重要性を知って、毎日歯や口腔の手入れをします。
○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。

**障害のある方・
介護を要する方** ○食べる幸せを持ち続け、歯と口腔の健康を守ります。
○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。
○安心して歯科診療を受けることができます。

第2章 中間評価の目的と方法

1 中間評価の目的

本計画の中間評価は、目標項目の進捗状況や取組状況の評価するほか、これまでの取組を振り返り、目標項目を達成するための課題を明らかにすることを目的としています。また、歯科保健を取り巻く環境の変化に対応し、新たな課題への取組を計画後期の事業に反映させることで、市民が生涯にわたり歯や口腔の健康を保ち、健やかで、心豊かに暮らせることを目指します。

2 中間評価の方法

中間評価では、目標の進捗状況や取組状況を把握することを目的としているため、個人の健康観や意識を把握するアンケート調査は実施しませんでした。なお、歯周病検診の結果より参考値を抽出できる項目については、基準値と参考値を比較し評価を行いました。最終評価の際は市民アンケートを実施し評価します。

評価判定が可能な17項目について、基準値と現状値を比較し、中間目標値の達成状況により4段階（A, B, C, D）で評価しました。

区分	評価の基準
A（目標達成）	目標達成
B（改善）	基準値より改善したが、目標は達成していない
C（変わらない）	基準値から変化がみられない
D（悪化）	基準値より悪化

第3章 中間評価の結果

1 目標値の達成状況（項目数）

ライフステージ	A (目標達成)	B (改善)	C (変わらない)	D (悪化)	合計 項目数
乳幼児期 ○親子・家族で正しい生活習慣と歯みがき習慣を身につけます。	3	0	0	0	3
学童・思春期 ○食後と就寝前の歯みがき習慣を身につけます。 ○自分の歯と口腔の健康を意識します。	2	0	0	2	4
成人期 ○自分の口腔に関心を持ち、健康な歯と口腔を保ちます。 ○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。	2	0	1	2	5
高齢期 ○おいしく食事ができるよう、歯と口腔の健康を維持します。 ○歯や口腔の重要性を知って、毎日歯や口腔の手入れをします。 ○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。	2	1	0	0	3
障害のある方・介護を要する方 ○食べる幸せを持ち続け、歯と口腔の健康を守ります。 ○年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。 ○安心して歯科診療を受けることができます。	0	0	0	2	2
全体	9 (52.9%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	6 (35.3%)	17 (100%)

評価判定が可能な17項目のうち、9項目で目標を達成し、改善した1項目と合わせると指標全体の改善の割合は、10項目（58.8%）でした。最終目標値をすでに達成した項目があった一方で、悪化した項目もありました。

ライフステージ別に達成状況を見ると、乳幼児期と高齢期はすべての項目で目標達成及び改善しています。一方で障害のある方・介護を要する方の項目は、すべての項目が悪化していますが、事業内容の変更によるものです。

2 中間評価のまとめ

各ライフステージの評価指標では、「むし歯のない幼児の割合」や「60歳で24本以上自分の歯を有する人の割合」の増加、「1人平均むし歯本数」の減少など、歯と口腔の健康状態が向上しています。一方で学童・思春期の「歯肉炎有病者の割合」が小学生と高校生で悪化し、成人期の歯や口腔に関する悩み事がない人の割合も悪化しています（P18、19）。これらのことから、これまでのむし歯予防の取組に加え、正しい歯みがき習慣とかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯と口腔の健康状態を確認する習慣の定着に向けた周知・啓発活動を重点的に行っていく必要があります。また、「生涯にわたり歯や口腔の健康を保ち、健やかで、心豊かに暮らせる」という目標を達成するために、歯科保健と生活習慣病予防の連携した取組やと高齢者の心身の機能低下につながる「オーラルフレイル」の予防に向けた取組を強化していく必要があります。

3 各ライフステージの評価と今後の取組

(1) 乳幼児期

目標

○親子・家族で正しい生活習慣と歯みがき習慣を身につけます。

<みんなの取組>

◆市民

- 家族は幼児期のおやつは食事の一部であることを理解し、おやつに適した食品を選びます。
また、おやつは時間と量をきめて子どもに食べさせます。
- 食べたら歯をみがく習慣をつけ、保護者は仕上げみがきをします。
- かかりつけ歯科医を持ちます。

◆関係機関 <幼稚園・保育園、歯科医院>

- 幼稚園・保育園の給食だよりで噛む大切さや歯みがきの大切さを啓発します。
- 給食で「カミカミ給食の日」を設定し、歯ごたえのある料理やおやつを提供します。
- 歯科医院は、歯と口腔の健康保持と仕上げみがきの方法を指導します。

◆行政

- 健診、健康教室を通じた歯と口腔の健康の啓発とブラッシング、おやつのとおり方などの指導、相談に努めます。
- 保育園・幼稚園の歯科健診結果を踏まえて、保護者への歯科保健指導を継続して実施します。
- フッ化物塗布及び洗口を推進します。

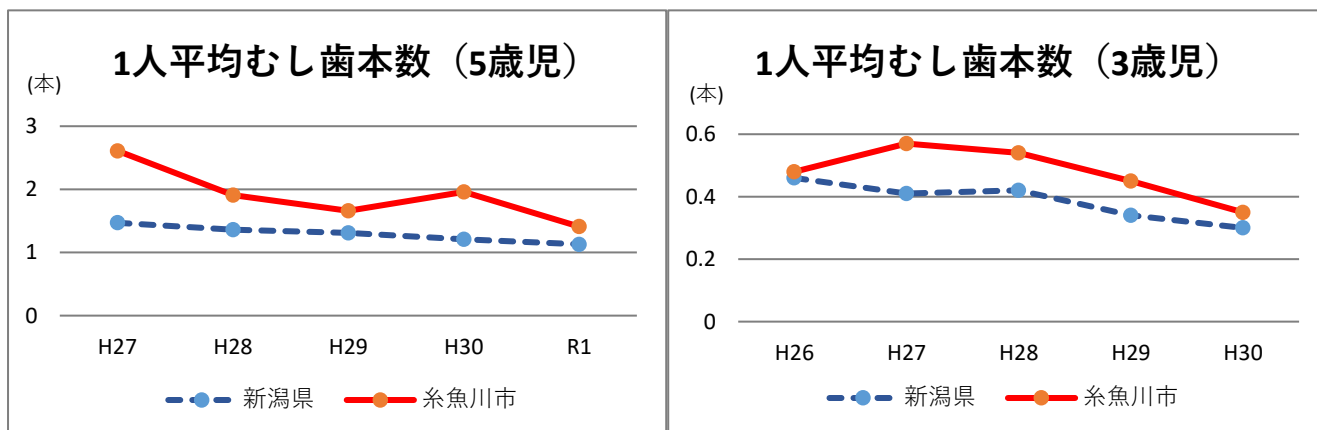
1) これまでの主な取組

- ・ 歯科健康診査の実施（1歳6か月児、2歳児、3歳児）
- ・ 健診時に歯科保健指導と個別相談の実施
- ・ 保育園・幼稚園でむし歯予防教室の実施
- ・ フッ化物塗布及び洗口の実施
- ・ 保育園・幼稚園での歯ごたえのある料理やおやつを提供
- ・ 定期的な歯科受診の勧奨

2) 評価

指 標	基準値 (H24)	現状値 (R1)	目標値		評価区分	
			中間値	最終値		
むし歯のない幼児の割合	3歳児 (健診)	81.0%	89.8%	87.0%	90.0%	A
	5歳児 (年長児)	55.2%	74.1%	60.0%	65.0%	A
毎日の仕上げみがき実施率	3歳児 (健診)	82.2%	88.5%	85.0%	90.0%	A

評価を行った3つの指標すべてが改善し、目標を達成しました。これまでの啓発や歯科保健指導に成果があったと考えます。1人平均むし歯本数は3歳児、5歳児ともに減少傾向にありますが、新潟県の平均よりも多くなっています。むし歯のない幼児の割合は上昇していることから、むし歯がある場合、複数本むし歯を有していることが考えられます。



3) 今後の課題と取組

3歳児と5歳児の1人平均むし歯本数が県の平均よりも多くなっています。歯と口腔の健康に関する意識啓発活動を継続し、親子・家族で正しい生活習慣と歯みがき習慣を身につけられるように取組みます。さらに、むし歯がある子どもとその保護者に対しては、早期の歯科医院の受診を促します。

(2) 学童・思春期（児童・生徒）

目標

- 食後や就寝前の歯みがきの習慣を身につけます。
- 自分の歯と口腔の健康を意識します。

<みんなの取組>

◆ 市民

- 食べたら歯をみがく習慣をつけ、低学年までは保護者が仕上げみがきを行います。
- 学校歯科健診の結果に基づき、早期に歯科医を受診します。
- 食事の際は、1口30回を目標によく噛んで食べます。

◆ 関係機関<学校>

- 学校歯科健診の結果要受診者に対して受診勧奨を徹底し、未受診者への受診を促します。
- 児童生徒に対し、歯や口腔の健康についての指導を行い、正しい知識の啓発を図ります。
- ポスターコンクールや歯や口腔の健康教育等を実施し、歯と口腔の健康に対する意識を高めます。
- 学校の委員会活動を通じて食後の歯みがきを推進します。
- 学校保健委員会や保健だより等で歯科保健の情報を家庭へ発信します。

◆ 行政

- フッ化物洗口を推進します。
- 歯科健診を実施し、むし歯、歯周疾患予防を推進します。
- 学校行事、広報誌などを通じて歯科保健の啓発を行います。
- 歯科保健に関する内容を取り入れた各種健康教育を実施します。

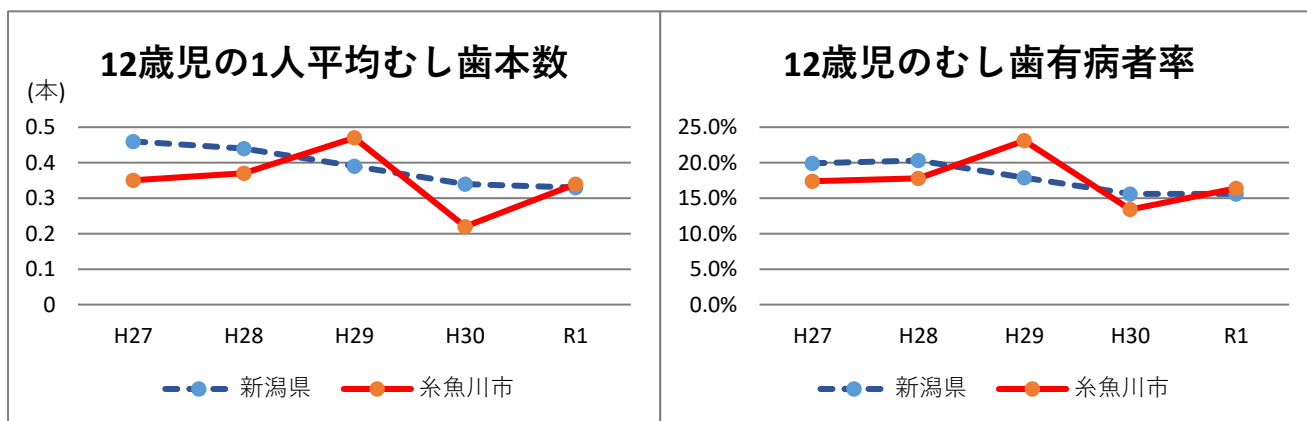
1) これまでの主な取組

- ・ 歯科保健指導
- ・ フッ化物洗口の推進
- ・ 定期的な歯科受診の勧奨
- ・ 小中学校給食で歯ごたえのある料理の提供

2) 評価

指 標	基準値 (H24)	現状値 (R1)	目標値		評価区分
			中間値	最終値	
12歳児(中1)の1人平均むし歯本数	0.54本	0.34本	0.50本	0.46本	A
歯肉炎(G0またはG)有病者の割合	小学生	7.5%	5.7%	5.7%	D
	中学生	9.9%	10.7%	10.7%	A
	高校生	10.3%	7.6%	7.6%	D

12歳児の1人平均むし歯本数は平成24年から減少し、目標を達成しましたが直近5年間の推移は横ばい傾向です。12歳児のむし歯有病者率も同じく横ばい傾向になっています。歯肉炎有病者の割合は学年によって達成状況が異なりました。小中学校のフッ化物洗口実施率は平成28年度から100%であり、むし歯予防につながっていると考えます。



3) 今後の課題と取組

歯と口腔の健康への意識にばらつきがあり、歯科受診が必要と診断されても、受診につながらないケースがあります。かかりつけ歯科医を持ち、適切な治療を受ける必要性や歯と口腔の健康について関係機関と連携し普及啓発を行っていきます。

フッ化物洗口の効果もあり、むし歯本数は減少しましたが、歯肉炎の有病者は増加した学年があります。正しいブラッシング方法の指導・啓発を強化します。

(3) 成人期（妊娠期を含む）

目標

- 自分の歯と口腔に関心を持ち、健康な歯と口腔を保ちます。
- 年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。
- 妊娠期は、特に歯と口腔の健康保持に注意します。

<みんなの取組>

◆ 市民

- 自分の口腔に関心を持ち、間食の食べ方に注意します。
- 喫煙を控えます
- 食後に歯をみがく習慣をつけ、歯間部清掃用具を使用します。
- かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受診します。
- 妊娠時における歯周病を理解し、歯科健診を受けたり、早期に治療したりします。
- 節目年齢に達した者は歯周疾患検診を受診します。

◆ 関係機関

- 歯科医は、口腔の健康と生活習慣病との関連について、正しい知識を提供します。
- 職場等で、食後に歯みがきができる環境を整えます。
- 職場等で、禁煙に対する取組を行います。
- 職場等で、節目年齢の職員に対して市が実施する歯周疾患検診を受診するよう勧奨します。

◆ 行政

- 広報誌や健康教室などにより、口腔の健康と生活習慣病や喫煙との関連について、正しい知識の啓発を図ります。
- 歯周疾患検診を継続して行い、受診率の向上に努めます。
- 妊婦の歯科保健の状況を確認し、妊婦歯科健診の実施に向けて取組ます。

1) これまでの主な取組

- ・妊婦無料歯周病検診を実施
- ・成人歯周病検診（36，41，51，61歳）を実施
- ・歯と口腔の健康についておしらせばんや出前講座等で普及啓発

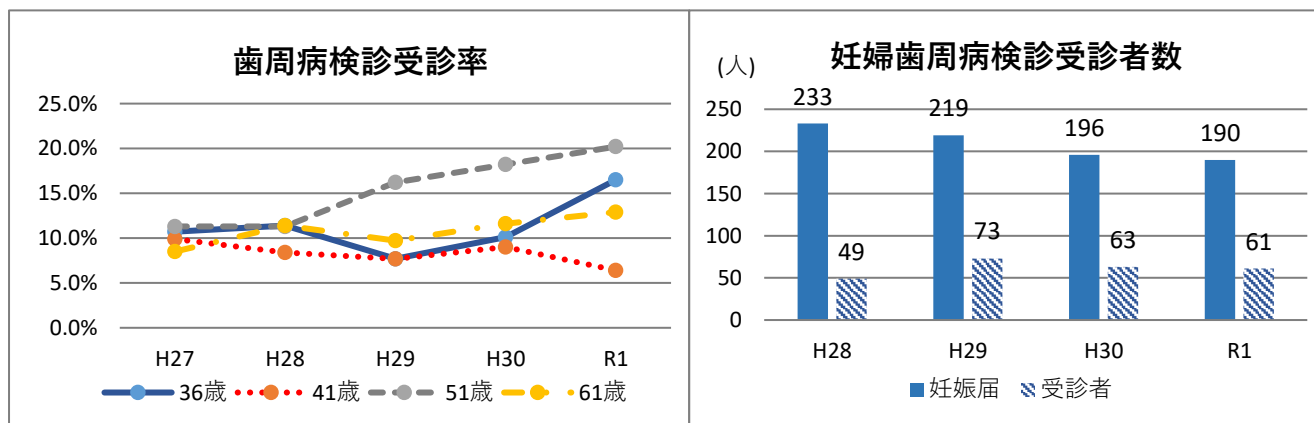
2) 評価

指 標	基準値 (H26)	現状値 (R1)	目標値		評価区分
			中間値	最終値	
60歳（55～64歳）で24本以上自分の歯を有する人の割合 ※	55.3%	85.7%	60.0%	65.0%	A
定期的に歯の健康診査を受けている人の割合 ※	24.0%	35.1%	33.0%	40.0%	A
歯間部清掃用具を使用している人の割合 ※	58.4%	58.1%	62.0%	65.0%	D
歯周疾患と全身の健康について学習する機会が増える	5回	5回	増加	増加	C
歯や口腔に関する悩み事がない人の割合 ※	40.9%	35.1%	45.0%	50.0%	D

※成人歯周病検診（36，41，51，61歳）の結果より参考値を抽出

基準値は市民へのアンケート調査による数値であり、現状値は歯周病検診受診者の結果による数値であることから、単純に比較することはできませんが、2つの項目で目標値を達成しました。市民が歯と口腔の健康に関心を持ち、健康な歯と口腔を保つことができていると考えます。

36，41，51，61歳を対象に行っている歯周病検診は受診率が向上しています。市民が年に1回、歯と口腔の健康状態を確認する機会になっていると考えます。妊婦を対象とした歯周病検診は毎年60人前後が受診しています。成人歯周病検診と比較すると多くの割合の人が受診していますが、妊婦の虫歯や歯周病は早産のリスクになるため、より多くの妊婦に受診してもらう必要があります。



3) 今後の課題と取組

歯や口腔に悩み事がない人の割合が減少しました。市民が歯と口腔の健康に関して関心を持ち、学習できる機会を作ることと、かかりつけ歯科医を持ち定期受診するよう普及啓発を行います。また定期受診のきっかけ作りや歯周病予防のために、成人歯周病検診・妊婦歯周病検診を継続し、受診率向上に努めます。

歯周病は糖尿病や脳・心血管疾患など全身疾患と関連していることが報告されています。そのため歯周病予防と生活習慣病予防の連携に取り組みます。

(4) 高齢期

目標

- おいしく食事ができるよう、歯と口腔の健康を維持します。
- 歯と口腔の重要性を知って、毎日歯と口腔の手入れをします。
- 年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。

<みんなの取組>

◆ 市民

- かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受診します。
- 口腔体操、唾液腺マッサージの方法を覚え、歯みがきとともに実施します。
- 節目年齢に達した者は歯周病検診を受診します。

◆ 関係機関

- 歯科医院は、口腔ケアの重要性等を周知し、歯科保健の意識啓発を図ります。
- 老人クラブ行事に口腔ケア教室を位置付け、口腔ケアの知識を啓発します。

◆ 行政

- 広報誌や健康教室などで、歯や口腔の健康と生活習慣病や喫煙との関係について、正しい知識の啓発を図ります。
- 歯周疾患検診の対象年齢を拡大し、早期治療を勧奨します。
- 高齢者の歯と口腔の状況について実態把握を行います。

1) これまでの主な取組

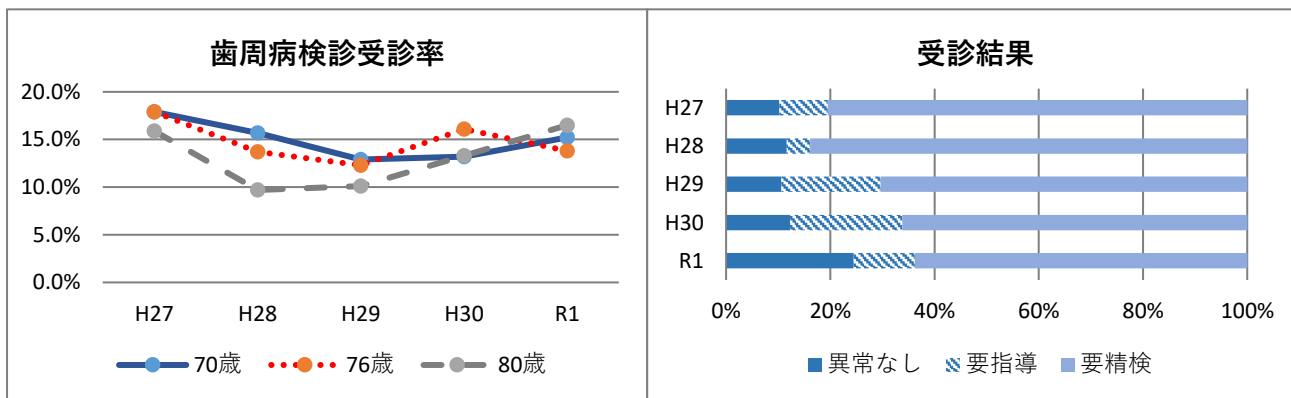
- ・成人歯周病検診（71 歳）、後期高齢者歯周病検診（76，80 歳）を実施
- ・歯と口腔の健康についておしらせばんや出前講座等で普及啓発
- ・高齢者サロンにてお口の健康教室を実施

2) 評価

指 標	基準値 (H23)	現状値 (R1)	目標値		評価区分
			中間値	最終値	
定期的に歯科医院を受診する人の割合 ※	30.4%	49.5%	40.0%	50.0%	A
固いものが食べにくくなったと答える人の割合 ※	32.4%	30.1%	25.0%	20.0%	B
歯と口腔の重要性、セルフケアについての学習機会が増える	—	18 回	増加	増加	A

※現状値は介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定用調査、現状値は 76，80 歳の後期高齢者歯周病検診の結果より

このライフステージでは 3 つの指標すべてが改善しました。特に、歯と口腔の重要性、セルフケアについての学習機会が増えたことで、正しいセルフケア方法の定着につながったと考えます。歯周病検診の受診結果では異常なしの割合が増加し、要精密検査の割合が減少しており、歯と口腔の健康が向上していると考えます。



3) 今後の課題と取組

歯周病検診の受診率が横ばい傾向にあります。市民がかかりつけ歯科医を持って、定期的に歯科検診を受診するきっかけとして、検診を継続し、受診率の向上に努めます。

また、高齢者の心身の機能低下につながる「オーラルフレイル」の普及啓発を行い、予防に向けた取組を行っていきます。

(5) 障害のある方・介護を要する方

目標

- 食べる幸せを持ち続け、歯と口腔の健康を守ります。
- 年1回はかかりつけ歯科医で歯と口腔の健康状態を確認します。
- 安心して歯科診療を受けることができます。

<みんなの取組>

◆ 市民

- 障害者の特性への理解を持つように努めます。
- 自分と家族の歯と口腔の健康に関心を持ち続けます。
- 口腔ケアの重要性を理解し、実践します。
- かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科医院を受診します。

◆ 関係機関

- 歯科医院は、障害者の歯科診療体制の拡充を図ります。
- 歯科医院は、歯科健診や口腔ケアの研修を開催し、口腔ケアの重要性等を周知、啓発します。
- 居宅介護支援事業所、介護事業所、障害福祉サービス事業所は、利用者に歯科健診を勧奨し、サービス提供時に日常的な口腔ケアの指導をします。

◆ 行政

- 歯科医院に対して、障害者の特性の理解を働きかけ、障害者が受診しやすい歯科診療体制の拡充を図ります。
- 口腔ケアの重要性やかかりつけ歯科医を持つことの必要性を周知します。
- 居宅介護支援事業所、介護事業所、障害者福祉サービス事業所における口腔ケアの実態を把握し、取組を啓発、促進します。

1) これまでの主な取組

- ・在宅要介護者等訪問歯科健診（県）
- ・口腔ケア実地研修（県）
- ・専門職を対象とした口腔ケア研修会

2) 評価

指 標	基準値 (H25)	現状値 (R1)	目標値		評価区分
			中間値	最終値	
在宅要介護者等訪問歯科健診の利用者	15 人	1 人	30 人	50 人	D
口腔ケア実地研修の利用施設	3 施設	1 施設	7 施設	10 施設	D

県の事業である、在宅要介護者等訪問歯科健診と口腔ケア実地研修は要綱が変更となったことから利用者・利用施設が減少しました。

定期検診を受ける人の割合は、実態を把握することができませんでした。

歯科医院の受診に不安や不自由を感じている方が、配慮してほしい事項等について記入する歯科受診サポートシートの活用を促進し、誰でも安心して歯科医院にかかることができるような環境づくりを行いました。

3) 今後の課題と取組

障害のある方・介護を要する方の歯と口腔の健康を守るために、施設職員が口腔ケアに関してスキルアップを図る機会作りを強化します。

第4章 目標値及び計画の見直し

1 指標の見直し

(1) 目標値を変更する指標

中間評価の時点ですでに最終目標値を達成またはほぼ達成している指標3項目は最終目標値を見直します。また、成人期の指標2項目については最終目標値を県の目標値と統一し、アンケート調査の数値にて評価を行います。

ライフ ステージ	指標		基準値	現状値	最終 目標値	新たな 最終 目標値
乳幼児期	むし歯のない幼児の 割合	3歳児（健診）	81.0%	89.8%	90.0%	92.0%
		5歳児（年長児）	55.2%	74.1%	65.0%	80.0%
成人期	60歳で24本以上自分の歯を有する人の 割合		55.3%	85.7%	65.0%	70.0%
	歯間部清掃用具を使用している人の割合		58.4%	58.1%	65.0%	45.0%
高齢期	定期的に歯科医院を受診する人の割合		30.4%	49.5%	50.0%	55.0%

(2) 対象者を変更する指標

他の指標との整合性をとるため、対象者を4歳児（年中児）から5歳児（年長児）へ変更します。

ライフ ステージ	指標		基準値	現状値	最終 目標値
乳幼児期	毎日の仕上げみが き実施率	5歳児（年長児）	—	—	増加

(3) 新たに追加する指標

歯科保健の現状を把握するために必要な項目を新たに追加します。また本計画にはなく、関連する計画に指標として挙がっていた項目について、整合性をとるために追加します。

ライフ ステージ	指標		基準値	現状値	最終目 標値	新たな 最終 目標値
乳幼児期	1人平均むし歯本 数	1歳6か月児（健診）		0.02本	—	0.01本
		3歳児（健診）		0.27本	—	0.30本
	フッ化物洗口率	幼稚園・保育園		95.9%	—	98.0%
	毎日の仕上げみが き実施率	1歳6か月児（健診）		84.4%	—	90.0%
	週5回以上ジュ ース類を摂取する割 合	0～3歳		16.9%	—	10.0%
		4～6歳		19.7%	—	10.0%
学童・ 思春期	フッ化物洗口率	小学生		96.6%	—	98.0%
		中学生		96.3%	—	98.0%
成人期	歯周病検診受診率		11.8%	14.5%	—	増加
高齢期	80歳で自分の歯が20本以上ある人			46.2%	—	50.0%
	後期高齢者歯周病検診受診率		16.9%	15.0%	—	増加
障害のあ る方・介護 を要する 方	専門職を対象とした口腔ケア研修会の利用 施設			4施設	—	5施設
	障害者理解促進事業補助金を活用する施設			—	—	2施設

(4) 削除する指標

事業実態との整合性をとるため6項目を削除します。なお関連する計画に類似する指標が挙がっていた項目については、国や県の指標を参考に指標を改訂しました。

ライフ ステージ	指標		基準値	現状値	最終 目標値
乳幼児期	おやつに菓子類を 摂取する割合	1歳6か月児	68.2%	—	減少
		3歳児	83.5%	—	減少
		4歳児	—	—	減少
障害のある 方・介護を要 する方	在宅要介護者等訪問歯科検診の利用者		15人	1人	50人
	口腔ケア研修の利用施設		3施設	1施設	10施設
	定期検診を受ける人の割合		—	—	増加

2 評価指標一覧（改）

ライフ ステージ	指標		基準値	現状値 (R1)	最終 目標値 (R5)	出典	備考
乳幼児期	むし歯のない幼児の割合	3歳児	81.0%	89.8%	92.0%	乳幼児歯科健診結果	改-1
		5歳児	55.2%	74.1%	80.0%		改-1
	1人平均むし歯本数	1歳6か月児	—	0.02本	0.01本		新
		3歳児	—	0.27本	0.30本	新	
	フッ化物洗口率	幼稚園・保育園	—	95.9%	98.0%		新
	毎日の仕上げみがき実施率	1歳6か月児	—	84.4%	90.0%	生活習慣アンケート(乳幼児 健診時実施)	新
		3歳児	82.2%	88.5%	90.0%		
		5歳児	—	—	増加		改-2
	週5回以上ジュースを摂取する割合	0～3歳		16.9%	10.0%		
		4～6歳		19.7%	10.0%		
学童・ 思春期	12歳児(中1)の1人平均むし歯本数		0.54本	0.34本	0.46本	学校歯科健診結果	
	歯肉炎有病者の割合	小学生	5.7%	7.5%	5.7%		
		中学生	10.7%	9.9%	10.7%		
		高校生	7.6%	10.3%	7.6%		
	フッ化物洗口率	小学生	—	96.6%	98.0%		新
		中学生	—	96.3%	98.0%		新
	むし歯があったら受診する割合	小学生	38.2%	—	43.7%	歯に関するアンケート(平成 26年2月実施)	
		中学生	24.4%	—	36.3%		
		高校生	13.3%	—	増加		
	食事をよく噛むように、いつもまたは時々は気を付けている人の割合	小学生	72.5%	—	80.0%		
中学生		62.1%	—	67.0%			
高校生		51.2%	—	増加			

ライフ ステージ	指標	基準値	現状値 (R1)	最終 目標値 (R5)	出典	備考
成人期	60歳で24本以上自分の歯を有する人の割合	55.3%	85.7%	増加	健康いといがわ 21 最終評価アンケート（平成26年7月）、現状値は歯周病検診結果	改-1
	定期的に歯の健康診査を受けている人の割合	24.0%	35.1%	40.0%		
	歯間部清掃用具を使用している人の割合	58.4%	58.5%	増加		改-1
	歯や口腔に関する悩み事がない人の割合	40.9%	37.1%	50.0%		
	歯周疾患と全身の健康について学習する機会が増える	5回	5回	増加		
	成人歯周病検診受診率	11.8%	14.5%	増加	成人歯周病検診結果	新
高齢期	定期的に歯科医院を受診する人の割合	30.4%	49.5%	55.0%	後期高齢者歯周病検診結果	改-1
	固いものが食べにくくなったと答える人の割合	32.4%	30.1%	20.0%	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	
	歯や口腔の重要性、セルフケアについての学習機会が増える	—	14回	増加		
	80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合	—	46.2%	50.0%	後期高齢者歯周病検診結果	新
	後期高齢者歯周病検診受診率	16.9%	15.0%	増加		新
障害のある方・介護を要する方	専門職を対象とした口腔ケア研修会の利用施設	—	4施設	5施設		新
	障害者理解促進事業補助金を活用する施設	—	—	2施設		新

削除した項目は記載していません。

新：新たに追加する指標 改-1：目標値を変更する指標 改-2：対象者を変更する指標

3 計画の見直し

計画の最終評価にあたっては、歯科保健を取り巻く環境の変化や市民の健康状態を把握するアンケート調査の結果、新たな指標を加えた目標の達成状況により計画を見直します。



発行日 令和3年3月
発行 糸魚川市市民部健康増進課
〒941-8501
新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号
TEL 025-552-1511(代) FAX 025-552-8250
E-mail kenko@city.itoigawa.lg.jp
ホームページ <http://www.city.itoigawa.lg.jp>